

平成30年度 自己評価並びに学校関係評価報告書

1. 本園の教育目標

- ①自分のことは自分でできること
- ②「おはよう」の挨拶ができること
- ③「ありがとう」と、すぐにお礼を言えること
- ④人の目を見て、しっかりとお話を聞けること
- ⑤自分の思ったことを、言葉で伝えられること

集団生活を通して、個々の幼児の自主性を育て、豊かな心、よき生活習慣や人間関係に向かう意欲、態度を培う。環境を通して、頑丈な体を作り、人としての心「素直な心」「くじけない心」「優しい心」「思いやりのある心」を育てられるよう、「バランスのとれた保育と教育活動」を目指す。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の改正された事を踏まえて、全教職員がしっかり理解をし、自己点検・自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見て、自らの保育を見直し、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	教育課程・指導 (保育・行事の見直し)	新教育要領・園の教育方針を理解し、幼児の実態や保護者のニーズを考慮した上で、保育や一つ一つの行事を見直し、幼児たちにとってより良い保育となるよう努めた。
2	研修 (教師としての資質や保育の質の向上)	園内での公開保育では、教員みんなで話し合うことで、各自の保育の振り返りや気づきとなった。 また園外の研修に積極的に参加し、学んだことを各自保育に活かしている。より良い保育を目指しているが各自の学びをほかの職員への資料提供まで実行できるとより良いと考える。
3	情報提供 (園の教育方針や保育の理解を深める)	保護者には、入園前の園の説明だけでなく、一つ一つの行事の前には、その行事の保育目標をおたよりで伝えたり、懇談会や参観時などに保育について細かく伝えたり、行事ごとにアンケートを実施したりすることで保護者のニーズや考え方を把握し、保護者の方の保育への理解や連携、協力を

		深めるように心がけた。
--	--	-------------

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

全教職員が幼稚園評価の主旨を理解し、自己点検、自己評価に取り組む様子が見られた。それにより、客観的な目で自らの保育を振り返り、さらなる課題を見出したり、より良い方向へと改善したりする姿勢が見られた。

今後も継続をしていき、より良い園を目指す努力を全教職員でしていきたい。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	安全管理 (防災対策の見直し)	災害に備えて、専門家の指導を受けることで教職員の危機意識や知識の向上を目指し様々な点の再確認をし、災害時のマニュアルの作成を行う。
2	教育課程、指導 (保育行事の見直し)	現在も行事や保育の見直しを行っているが、今後も幼児が主体の保育となることを目指して実施、反省、対応のサイクルを常に念頭に置き引き続きこの課題に全教職員で取り組んでいく。
3	教職員の協力・連携	クラス、学年関係なく、幼児や保育の情報を共有、把握できるよう、毎日情報交換(保育カンファレンス)の場を持つ。 チーム保育という意識を高め、いろいろな問題を教職員全員で考え取り組んでいく。

6. 学校関係者の評価 (平成30年度自己評価に基づく)

○ 学校関係者評価・意見

教育目標やそれらを実現させる為の実施計画、並びに取り組む状況を体現させて頂いた保護者として、目標や計画が単に言葉だけでなく、温かみある日々の園生活に生かそうとしている姿勢に心から感謝します。

先生方が一人ひとりと向き合い、その子にあった保育をしているのがわかり、安心して通園させることができます。

保護者への情報提供は、年間行事予定表、月間行事予定表とは別に行事前日にアプリでの連絡が入り、忙しい保護者にはとても助かります。

アンケートでは保護者の声が園に届き、保護者の小さな声にも耳を傾けてくれていると思います。

一年一年成長していて、年長では先生方の姿を見て、子どもたちは自発的に困っている子には声をかけるようになってきていると思います。

安全管理において災害時の備えは従来通りでよろしいかと思いますが、登下園における昨今の悲しい事件を思う時、これらへの対応についても適切なマニュアル作りや、

保護者への周知徹底をお願いします。

園の財務状況もホームページ等で積極的に公開されている。施設面では環境整備に力を入れている。また、園庭の遊具は定期的に点検して、子どもたちが安心・安全に遊べる環境になるよう努力されている。

○ 学校関係者評価 評価者

前母の会会長

大須賀 愛 様

元母の会会長

和田 晴美 様

名古屋文化学園保育専門学校教員

加藤 洋子 様